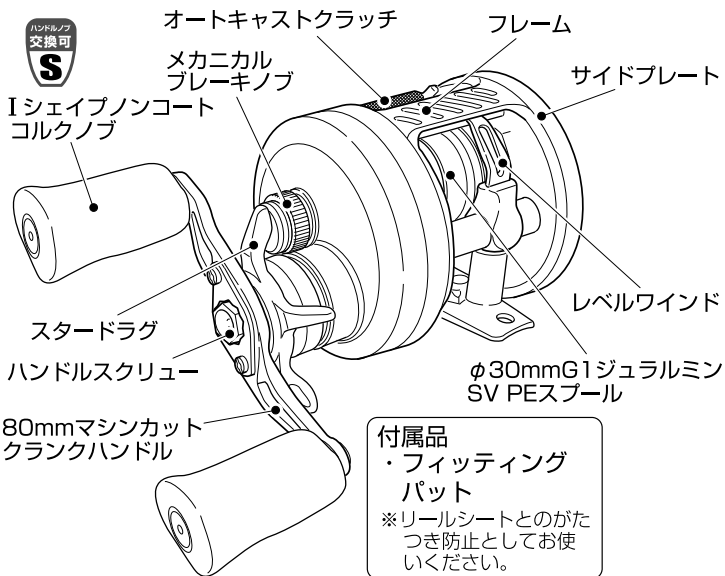


SLP WORKS

●各部の名称と操作方法（※図は右ハンドルモデルです。）

この度は MILLIONAIRE CT SV PE SPECIAL-SLPW ベイトキャスティングリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、PEラインの使用を前提に、ベイトキャスティング用にセッティングを施したPE専用機です。このリールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、リール同様この取扱説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。



MILLIONAIRE CT SV PE SPECIAL-SLPW

取扱説明書

●安全上の注意

注意

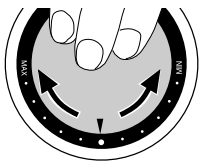
- ①糸をリードするレベルwindの所に指を近づけて釣りをしないでください。指を挟むと外れなくなるおそれがあります。
- ②特にスプールを抜いた状態で指を挟むと指が外れなくなり、怪我をするおそれがあります。
- ③糸が勢よく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切るおそれがあります。
- ④糸が勢よく出ている時は、スプールの上に指を置かないようにご注意ください。火傷や、指をはさんで怪我をするおそれがあります。
- ⑤キャスティング時にはクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をするおそれがあります。
- ⑥ハンドルとボディの隙間に指・衣服等が挟まると大変危険です。怪我をするおそれがありますので、取扱いは十分注意してください。
- ⑦超薄肉スプールの為、スプールエッジ部が鋭利になっており、特に濡れた手で触れると怪我をするおそれがあります。指などを切らないよう十分注意してください。
- ⑧リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタつきがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我をするおそれがあります。
- ⑨乳幼児の手が届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながるおそれがあります。

●安全上・ご使用上の注意

注意

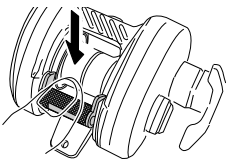
- ①本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
- ②本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損するおそれがあります。
- ③根掛かりした時は、無理に竿をおろす糸を棒状の物に巻き付け、引っ張って切るようにしてください。竿をおろすと、竿折れの原因になります。
- ④落下等の強い衝撃がかかると、破損する場合があります。また、竿に装着した状態での落下等、竿尻に衝撃がかかった場合にも、リールの脚部が破損するおそれがありますので十分ご注意ください。
- ⑤リールのフックウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をするおそれがあります。
- ⑥ドラグ付きリールで連投する際には、ドラグが滑ると糸で指を傷つけるおそれがあります。必ずドラグをよく締め付けてから投げるようにしてください。
- ⑦ドラグを長時間連続使用すると、ドラグ収縮部が熱くなり火傷をするおそれがあります。
- ⑧クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。ラインがロックした状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。
- ⑨リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないようにご注意ください。
- ⑩使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻糸量、巻糸状態に差異が生じることがあります。
- ⑪塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥がれた場合は、その部分に触れないでください。怪我をするおそれがあります。
- ⑫シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、ご使用にならないでください。また、上記が手に付いたまま本機を扱うこともおやめください。本機の表面が変質したり塗装が剥がれたりするおそれがあります。
- ⑬弊社純正部品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正部品以外の部品が取り付けられたままでの修理は場合によってはお断りさせていただきますのであらかじめご了承ください。
- ⑭製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●E.A.S（外調整マグダイヤル）



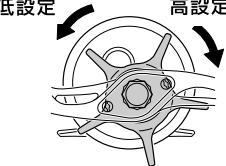
- サイドプレート部中心を指で押さえつけて、左右に回転させる様に動かしてください。設定は11段階、▼マークを外周部の点に合わせるようにして調整を行ないます。MIN方向に回転させると、ブレーキ力は弱くなり、MAX方向へ回転させるとブレーキ力は強くなります。

●オートキャストクラッチ



- 親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。親指でクラッチとスプールを同時に押さえることができるので、すばやくキャストできます。

●ドラグ調整方法（※図は右ハンドルモデルです。）



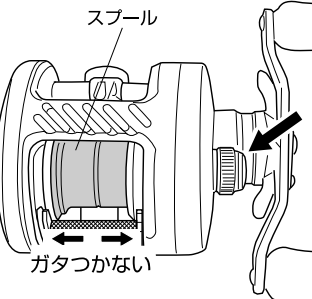
- 右ハンドルモデルの場合、時計回りに回せばドラグ設定は高くなり、反時計回りに回せばドラグ設定は低くなります。（左ハンドルモデルは逆になります）使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。

●ブレーキ設定方法

- ・大半のルアーは、マグダイヤルで制御することが可能です。メカニカルブレーキを掛けすぎるとスプールレスポンスを損ね、性能を発揮できなくなります。以下が基本的な設定方法です。

●メカニカルブレーキ設定を“ゼロ”にする。

メカニカルブレーキノブを緩めた状態から締め込んでいく中で、ガタついてきたスプールがガタつかなくなる所があります。そのピンポイントがメカニカルブレーキ“ゼロ”の状態です。



●ゼロ設定からわずかに緩め、微小なガタつき（0.2mm程度）を感じるところで、ご使用ください。

注意

※ミクロン単位の精度を追求したスプールを採用しているため“ゼロ”状態より大きく緩み過ぎた設定だと、キャスト時のスプールの振れが大きくなるためにリール本来のブレーキ性能が損なわれ、却ってバックラッシュや飛距離ダウンの原因となります。また、ノブが外れてパーツを紛失するおそれもあります。メカニカルブレーキノブは「緩めるほど飛ぶ」ということはなく、“ゼロ”設定プラスαの程度がベストです。緩め過ぎは逆効果です。

- ①マグダイヤル目盛りを最大にする。
 - ②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げていきます。バックラッシュ気味になるひとつ手前の目盛りが、そのときの条件に合った最適なセッティングです。
- ※もちろん、サミングを併用することで、更にブレーキを落とすことが可能です。
- ※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じたところで初めてメカニカルブレーキを締めて使うことをお勧めします。

※メカニカルブレーキを締め込み過ぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が起こるケースがあります。締め込み過ぎないように、ご注意ください。

●アフターサービスについて 本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合はお買い求めの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター（無料）
携帯電話からもご利用できます TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00～17:00（土・日・祝祭日は除く）
ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます 株式会社スポーツライフプラネッツ
http://sportlifeplanets.com 〒190-0031 東京都立川市砂川町8-79-1

●PEラインキャスティングのコツ

MN0085

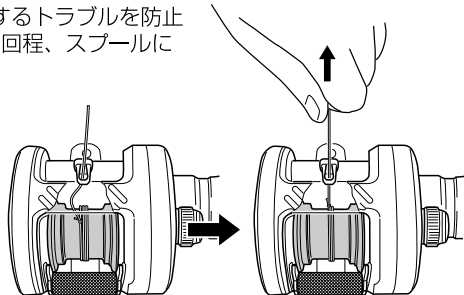
本リールは、PEラインを、よりトラブルレスにキャストすることができるよう開発されておりますが、**PEラインの特性上、全くトラブルがなくなる訳ではありません。**使いこなされるには、『慣れ』という部分が不可欠です。あらかじめご了承ください。

- ①最初からフルキャストをせずに、徐々に距離を伸ばして行くように心掛ける。
 - ・その日の釣り始めの状態では、スプールに巻かれたPEライン同士がくっついていたり、下のラインに上のラインが食い込んでいたりする場合があります。
 - ・その状態でいきなりフルキャストすると、ライン放出の妨げになり、最悪の場合はラインが高切れして、ルアーをロストすることもあります。
 - ・ラインが食い込んだり、くっついた状態をほぐし、スプールによくラインが馴染んだ状態になったら、徐々にキャスト時の入力を強くしていただくことをお勧めします。
- ②ロッドの弾力を利用して、“乗せる”キャストを心掛ける。
 - ・“コンパクトなスイングでビュッと振り切る”ようなキャストはトラブルの元です。スイングの初速～中盤～終盤までのスピード差を極力少なくする意識でキャストしてください。
- ③ジャークや、シャクリ等で、ラインがフケ気味に巻かれる場合は、テンションを掛け直す。
 - ・糸フケが多く出ている状態で使い続けると、上のラインが下のラインに食い込みやすくなります。ラインが食い込むと、次のキャスト時のトラブルに繋がります。
- ④キャスティングの中で、メカニカルブレーキノブを緩め過ぎない。
 - ・緩め過ぎると、トラブルが増えます。緩め過ぎは逆効果です。
 - ※メカニカルブレーキノブの設定については、「ブレーキ設定方法」の欄を参照ください。
- ⑤リーダーとの結節部が、ロッドのガイドから外側に出るようにする。
 - ・リーダーが長いと、キャスト時に結節部がガイドに絡み、高切れの原因となります。
 - ・リーダーを長く取らざるを得ない場合は、ノット部を極力小さくすることをお勧め致します。

- Q. 向かい風のときには？
- A. マグダイヤル目盛りを上げて、余分なラインが出ないようにすることで、トラブルを減らすことができます。それでも、バックラッシュをしてしまうときには、はじめてメカニカルブレーキノブを締めていきます。
- Q. ナイロンやフロロカーボンラインは使えないの？
- A. 本製品はPEライン専用のブレーキ設定のため、PEライン以外を使用するとトラブルが発生する可能性があります。ご使用はおやめください。

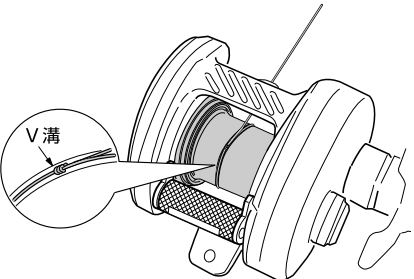
●スプールにPEラインを巻きはじめるときの結び方

- ・PEライン使用に際しては、スプール巻糸面がラインが空転するトラブルを防止するため、3回から5回程、スプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。
- また、結び付けた後、強く引っ張ってもスプールから空転しないことを確認した後、糸巻きを開始してください。



●スプールへのラインの結び方（※図は右ハンドルモデルです。）

- ・右図のようにスプールセンターのV溝に結びコブを入れます。（結び目は完全には納まりません。）
 - ・スプールレスポンスを発揮するためには、必要最小限のラインを巻いての使用をお勧め致します。
- ※テープで固定するのはおやめください。テープで固定するとスプールの回転バランスが崩れ、「ブーン」、「キーン」といった異音が発生します。



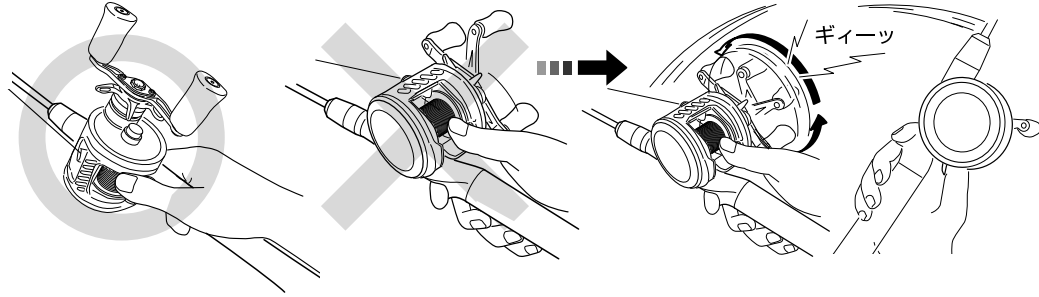
●キャスト時の注意（※図は右ハンドルモデルです。）

＜正しい握り方＞

ハンドルを上向き（もしくは下向き）にして握ります。

＜誤った握り方＞

ハンドルを横向きにしてみようと・・・

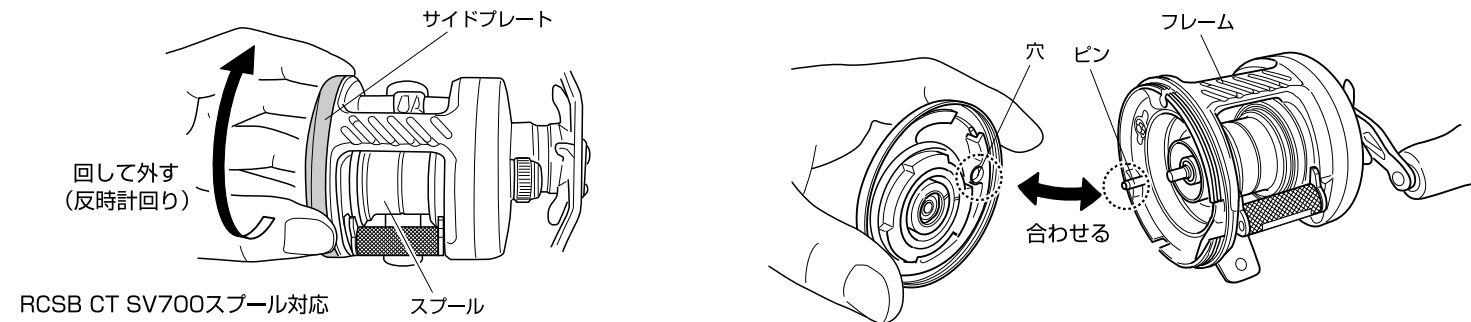


⚠ ※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐようなもの。最悪ギアの破損のおそれもあります。絶対にお避けください。※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないと、ギアやボールベアリング等の破損につながるおそれがあります。※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

●スプールの交換方法（※図は右ハンドルモデルです。） 以下の方法で、簡単にスプールの取り外し・交換が可能です。

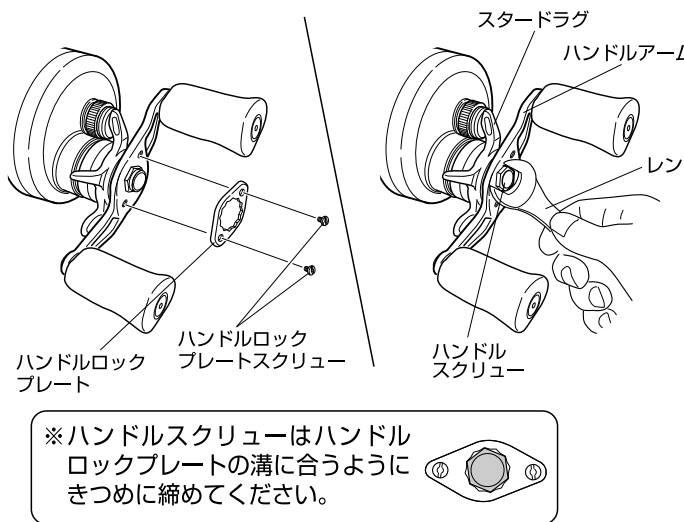
- 1 サイドプレートのリングを反時計回りに回し（リングがスクリューになっています。）サイドプレートを外します。（左ハンドルは時計回りでサイドプレートを外します。）※このときスプールを落とさないようにご注意ください。変形してトラブルの原因になります。

- 2 フレームのピンとサイドプレートの穴を合わせ、リングを時計回りに抵抗を感じるまで回し、サイドプレートを取り付けます。※サイドプレートには緩み止めのOリングがあり、通常の使用の中では、緩みにくくなっております。締め込み過ぎると、逆にサイドプレートが固着する可能性がありますのでご注意ください。



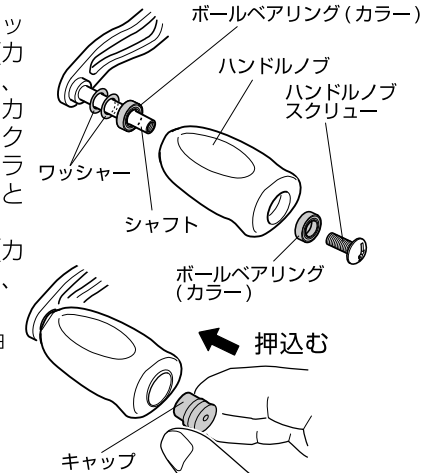
●ハンドル交換方法（※図は右ハンドルモデルです。）

- 1 市販のマイナスドライバーでハンドルロックプレートスクリューを緩め（反時計回り）、ハンドルロックプレートを外します。
- 2 ドラグを締め込み、市販のレンチ（※）を使い、反時計回りでハンドルスクリューを外します。（※）SLP WORKS RCSベイトキャストイングリールオプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取り外し用の工具が入っております。
- 3 ハンドルを外し、交換してください。
- 4 レンチを使い、ハンドルスクリューを取り付けます。強めに時計回りに締めてください。
- 5 ハンドルロックプレートを取り付け、市販のマイナスドライバーでハンドルロックプレートスクリューを時計回りで締めてください。



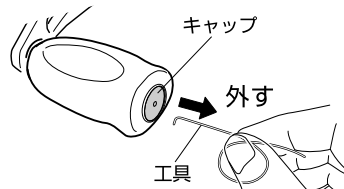
●ハンドルノブ取付方法 ※Sサイズノブと互換性があります。

- 1 図のように、シャフトにワッシャー、ボールベアリング（カラー）を入れ、ノブを挿入し、残りのボールベアリング（カラー）を入れます。スクリューを市販のプラスドライバーを使ってしっかりと締め込みます。2つ目のボールベアリング（カラー）がノブに納まるよう、しっかり入れてください。
- 2 図のように、キャップを押し込んでください。



（キャップを外すときは）

『I型ノブ』の場合
SLP WORKS/RCS ハンドルノブに同梱の工具を使用しキャップの穴に引っかけ外します。



※ハンドルノブのガタが大きい場合は、SLP WORKS/RCS ハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。（追加する場合、ワッシャーを入れ過ぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。）

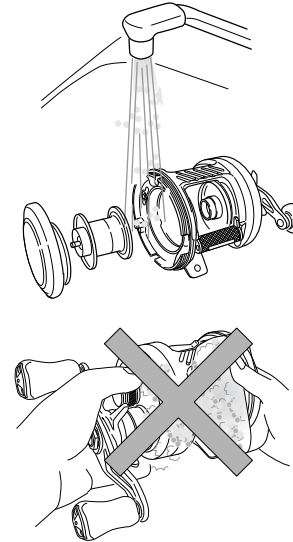


●重要！お手入れ方法

- 本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
- 錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
- 本製品を末永くお使いいただくためにも、年に1度は（株）スポーツライフプラネットへオーバーホールに出すことをお勧めします。（有料）

＜順序＞

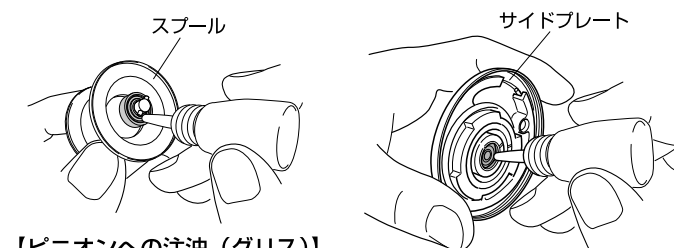
- ①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。※特に海水域で使用したまま乾燥すると塩が結晶化してしまい、水洗いの効果が低下します。
- ・ドラグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。
- ・サイドプレート、スプール、本体いづれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。
- ※温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けしているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対におやめください。



■注油規定 ⚠ ※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

【スプール部ボールベアリングへの注油（オイル）】

- 1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。
 - 2 スプールを取り出し、シャフトに付属しているボールベアリングにも注油します。
- ※付け過ぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なうおそれがあります。例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合も軽く一吹き程度で結構です。



【ピニオンへの注油（グリス）】

- 1 メカニカルブレーキノブを外し、中のピニオンシャフトをはずした上で、クラッチをOFFにしてピニオン外側面に注油します。（極少量、スプレーグリスの場合一瞬吹き付ける程度です。）

【ピニオン部ボールベアリングへの注油（グリス）】

- 1 メカニカルブレーキノブを外し、中のピニオンシャフト（茶色のシャフト）をはずした上で、内側に見えるボールベアリングに注油します。又、スプールを取り外し、反対側のボールベアリングにも同様に注油します。この際クラッチをOFFにさせていただくとまっく行えます。（共に極少量、スプレーグリスの場合一瞬吹き付ける程度で結構です）

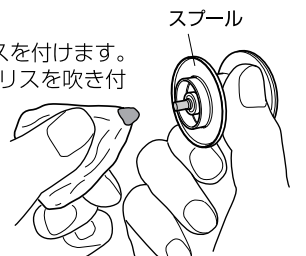


- 推奨オイル：ダイワ純正リールガードオイル
REV ボールベアリング用オイル
 - 推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
- ※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なうおそれがありますので、**絶対におやめください。**

- ・本体のウォームシャフトやレベルウィンド、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。
- ②洗浄後は、3パーツを組立て、よく水を切って乾燥させてください。
- ・よく水を切るために、**ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的**です。
- ※海水で使用された後は、スプール外周部やフレーム内部などの水分をタオルなどでふき取ってください。乾いて塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
- ・**ドラグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。**また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。
- ※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッシュボード等）に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- ・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。**乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。**
- ※溶剤（シンナーなど）では手入れしないでください。
- ③**以下の注油規定に則り、必ず注油してください。**
- ④保管の際は、ドラグを緩めてください。

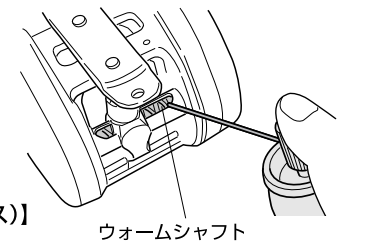
【スプールシャフトへの注油（グリス）】

- 1 取り外したスプールのシャフト両端に、グリスを付けます。イラストのように、一度、ビニールなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。
- ※グリス切れの状態で長時間使うと、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼きつきをおこすことがあります。少量を毎回注油されることをお勧めします。



【ウォームシャフト部への注油（グリス）】

- 1 図のようにウォームシャフト部へ注油します。
- ※長時間で使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてから綿棒などで拭き取り、その後、グリスを注油してください。



【ハンドルノブ、クラッチへの注油（グリス）】

- 1 図のようにハンドルノブへ注油します。
- ※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。
- 2 図のようにクラッチレバーと本体との摺動部にも注油してください。

※水抜き穴への注油は絶対におやめください。

※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。

- ※落下などのショックを与えることで異音の発生や、スプールフリー性能が変わることがあります。お取り扱いには充分にご注意ください。
- ※リールを長時間（数ヶ月以上）お使いにならないときは、リール作動部を時々動かすことをお勧め致します。

